

Funeral Report

感染防止対策を徹底し 老舗靴店のトップを送る

故 山田光夫 お別れの会



間口5間の生花祭壇。祭壇左は毎年7月に仙台市で開催される「一番町三社祭」、右は大好きなお酒をたしなんでいる遺影

Data

日時 2020年8月26日(水)
13時30分～15時00分
場所 仙台迎賓館 齋苑
(仙台市青葉区)
故人名 山田光夫(東京屋カバン店社長)
2020年8月12日死去(85歳)
式形態 無宗教献花方式
祭壇形式 生花祭壇
会葬者数 120人
主催者 東京屋カバン店
施行業者 清月記

祭壇データ

▶祭壇サイズ
間口9.0×高さ1.66×奥行2.0m
▶使用花材 白ギク400本、スターチス280本、スプレーマム300本、小ギク200本、オリエンタルユリ60本、コチョウラン40本、ジャンボデルフィニウム30本、トルコギキョウ30本、アルストロメリア30本、カラー30本
▶制作時間 / 2人で3.5時間

1920(大正9)年創業の靴専門店で、仙台市に本拠を置く東京屋カバン店の社長を務めていた山田光夫氏のお別れ会が、清月記(本社仙台市宮城野区)の施行により8月26日に営まれた。

故人は21歳の若さで社長を引き継ぎ、二代目社長として65年間にわたって同社の陣頭指揮をとり、ランドセルをはじめ、スーツケース、ビジネスバッグのトップ企業に押し上げた。

故人は8月12日に亡くなられ、15～16日に「仙台中央斎場 清月記」(仙台市青葉区)において、近親者のみの通夜、葬儀・告別式を挙げる。お別れ会はその10日後という短期間での施行となったため、通夜後にお別れ会の打合せを行った。

遺族側は、当初仙台市内のホテルを希望し

ていたが、参考として「仙台迎賓館 齋苑」で行なわれた社葬・お別れ会の祭壇写真やメモリアルコーナーの写真を提示したところ、会場の規模や雰囲気に加え、東京や大阪など遠方からの参列者が想定されたため、万全の感染防止対策が可能という判断で齋苑で営むことになった。後日、メモリアルコーナーのイメージ図や会場レイアウト、祭壇案、しおり、タイムスケジュールをもとに齋苑で打合せを行ない、会場の雰囲気やイメージを確認しながら当日を迎えた。

会場入口では、清月記スタッフが参列者1人ひとりの手指に消毒液を噴射してから入場。サーモグラフィーによる検温後、受付へと向かった。受付、立礼位置にも飛沫防止の亚克力板を設置するなど、防止対策に努め、コロナ禍にありながら120人が故人を偲んだ。



会場入口でスタッフが1人ひとりに手指消毒をしたうえで入館



受付にも消毒液を設置するとともに飛沫防止の亚克力板を設置



亚克力板越しの立礼



献花



家族、会社、友人との写真で構成されたメモリアルコーナーと供花芳名板



参列者に配付されたしおり



メモリアルコーナー脇には弔電の芳名も掲示



門標